

「第3回 全国高校生介護技術コンテスト」課題

伊勢サチさん 83歳 女性

伊勢さんは脳梗塞による右半身麻痺があり、起き上がりや歩行、衣服の着脱には一部介助が必要です。

以前は、よく手芸をしていましたが、利き手（右手）が不自由なため、細かい作業は諦めていました。先日、孫娘より、施設のクリスマス会に参加できるとの電話があり、大変喜んでいました。

作業療法士よりクリスマス飾り作りを勧められ、伊勢さんは、折り紙で輪飾りを作りたいと思うようになりました。

介護者はベッドに側臥位で休んでいる伊勢さんに、カーディガンを着させて、白線に沿ってホールまで歩行介助をしてください。その後、ホールの椅子に腰掛けさせ、テーブル上のクリスマス飾りの輪を1つ繋ぎ合わせるまでの介助をしてください。

伊勢さんは四点杖を使用しています。また、失語症があり、返事は「指さし」または「はい」「いいえ」「うなづく」「首振り」のみです。

伊勢サチさんに関する情報

家族構成

夫とともに長男の家族（妻、子ども1人）と同居をしていたが、10年前に夫は他界した。長男の子どもは現在高校2年生（女子）である。

既往歴

1年前に脳梗塞を発症し、右上下肢に麻痺、失語症が生じた。介護老人保健施設にてリハビリを行い、4点杖をついて歩行できるようになるが、起き上がりや歩行時にふらつきがみられ、一部介助が必要である。

生活歴

以前、小学校の教諭をしていた。几帳面で明るい性格だった。退職後は、同居家族の食事を作るなどの家事をこなし、孫の面倒もよく見ていた。また、手芸やお菓子作りが好きで、地域のサークル活動にもよく参加していた。

脳梗塞を発症後、失語症により自分の思いを上手く話せなくなっていた。明るさが失われていったが、唯一、孫娘が面会に来ることを楽しみにしており、訪問時には笑顔がよく見られていた。

介護老人保健施設でリハビリを行い、自立度が高まったら、在宅で生活を送ることを希望している。